

# 群馬県立太田高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版) (様式1)

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値目標	①	②	総合				
I 特色ある学校 作りに努めてい ますか。	1 特色ある教育活動を行 っていますか。	① 学校に対し、好きだと感じている生徒が、80%以上である。	A	A	A	○2回とも95%以上の生徒が学校が好きだという結果を得た。分散登校にもスムーズに対応でき、遅滞なく授業が進み、生徒との繋がりを維持することができた。非常時だからこそ丁寧な指導を心掛け、連携して教育活動に当たってきた。向上心を育み、高いレベルの学校好きを増やせるよう指導の継続を図っていく。 ○コロナ禍で大学見学や説明会等への現地参加はできませんでしたが、オンライン等を活用して意欲的に進路学習ができた。合格に向けて各教科で工夫をしながら学力向上に努め、最終的に目標達成を目指していく。 ○今年度は県高校総体は2年ぶりの実施となり、一定の成績を残せた。今後もこれまでも同様に、部活動方針に基づきながら、さらなる向上を図り、太高生の強みを生かせる計画的な部活動指導を継続していく。 ○コロナ禍で外部施設へ出向けない状況の中、外部講師による講演会(来校実施・オンライン実施)を定期的に開催し、生徒のキャリア観の育成や深い学びの機会を設けてきた。	○昨年度、新型コロナの感染拡大で部活動の大会が無くなって中途半端に引退することになったが、良き友人達と一緒に切り替えて受験勉強に臨むことができた。本校に入って良かったと言っている。 ○スクールポリシーを決めるのは大事なこと。太高の職員の中で考え方を共有し、発信していくのは良いこと。 ○コロナ禍で楽しく行事ができず、いろいろな葛藤があった。その中で、先生や友人に助けられ、この学校に入って良かった。 ○ぜひ部活動を活発に行ってほしい。加入率がなるべく下がらないように。	○社会情勢、生徒の要望に対応しつつ、イメージ性の高い教育課程を構築し、進路選択、実現しやすい授業編成が実現できるよう尽力する。 ○大学見学等より進路意識の向上にむけた取り組みを実施していく。低学年から難関大志望者への指導をより丁寧に行い、第一志望を譲らない気持ちで育てる。 ○高校教育改革及び高大接続改革を踏まえ教科横断的な学習指導計画に取り組み必要がある。ICTの活用を積極的に推進し、学力三要素を踏まえた生徒の学力向上の指導に努める。 ○キャリア教育・探究的な学び・グローバル教育などをそれぞれ単独で行うのではなく、『本校の育てたい生徒像』の実現に向けた3年間を見通した継続的な教育活動の中で実践していく。	
		② 3年間を見通した系統的・計画的な学習指導・進路指導により、第一志望校への合格率80%以上、国立大学合格者数150名以上である。	B	B	B				
		③ 部活動加入率が各学年90%以上で、この内80%以上が積極的な活動である。	B	B	B				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	○授業に満足している生徒は全体の93%であり満足度は高い。今後もこの満足度を維持、向上できるよう授業改善に努める。 ○補習・課外授業に対する満足度は全体で80%以上であり効果的に活用されている。学力三要素をより高めるため、習熟度やICTの活用などでより改善を図る。 ○総合的な探究の時間を通して課題発見解決能力が「大いに高まった」「高まった」と感じる生徒が、1年生で約90%、2年生で約75%と1学期より増加した。今年度の探究活動は綿密に計画を練って生徒が主体的に学ぶ授業設計をしており、その成果が現れてきていると感じている。今後もブラッシュアップをしていきたい。 ○面談については生徒、保護者とも満足度は高いが、実際の学習に繋がっているかや課題があると感じる。実行力が伴うような面談や集会、進路通信等の指導をより適切に、継続的に実施していきたい。 ○学習時間の確保は継続的な課題である。単に課題を多くして時間を増やすのではなく、生徒が意欲的に学習に取り組めるような工夫を検討したい。	○2年の7月に成績が下がっていることが課題。この落ち込みが小さければもっと上がるかもしれない。 ○探究は、現場では大変である。テーマを決めるところから大変。また、勉強にリンクさせることが難しい。SDGsに関連付けてやっているところもある。意味のある活動になると良い。 ○発表やプレゼンはした方が良く、保護者への配信などもできると良い。 ○生活のリズムをつくるのに最初が大事。1年次に強制してでもやらせてもらえると良い。 ○1日平均3時間の学習時間確保は、そもそも達成が難しい目標なので、現状は良いのではないかと。 ○課題が多いのは良い。意図してやっていること。その意味や目的の説明が必要なのではないか。	○校内の定期試験と模擬試験を活用して検討会等を実施し、その情報や課題点を学年や生徒、保護者と共有する。また全体指導を通して個別の指導の強化に努める。全体指導の良さや習熟度別指導の良さの双方を検討する。 ○授業第一主義のもと、ICTの活用などにより授業改善を推進させる。また授業を補完する為の課外や補習、課題等を適切に調整し、文武両道のバランスの取れた生徒の育成に尽力する。 ○保護者の方へ、「総合的な探究の時間」についての内容が伝わっていないか、生徒の成長を実感する場がないようであった。ホームページへの掲載やメール等を通じた連絡など、学校からの発信力を高めて、情報が伝わるよう努める。 ○総合的な探究活動と連携して、自ら学ぶ姿勢の育成に努め、学習時間の増加を目指す。また、学習時間とその場所の確保について、自宅や学習室等の効果的な活用を勧める。	
		⑤ 進路実現に向けて実施している、補習・課外授業に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A				
	⑥ 総合的な探究の時間を中心とした探究的な学習活動に満足している生徒が80%以上である。	B	A	A					
	⑦ 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	A	A	A					
3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑧ 学習内容の定着等のために、家庭での1日当たりの平均学習時間は3時間以上である。	B	B	B				
		⑨ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にやっている」と認識している生徒が80%以上である。	B	B	B				
		⑩ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回程度行っている。また、生徒アンケートや学年分掌の情報交換を通して、いじめの発生防止と発見に努め、いじめの解消100%をめざす。	A	A	A				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑪ 生徒会行事に満足感・達成感を持っている生徒が70%以上である。	A	A	A	○本校のいじめの未然防止や早期発見とその解消に向けた取組について生徒の85%、保護者の65%が肯定的な意見であった。 ○2学期中の欠席率は1.0%、12月までで30日以上欠席がある生徒は8名であった。 ○現在までのいじめ認知件数は0件である。 ○生徒会行事については、体育祭として第1回煌斌祭を実施するとともに、事後アンケートでは生徒の90%以上が積極的に参加したと回答した。今後も生徒が主体的に活動できるように支援していく。 ○保護者の91%、生徒の93%が三者面談で理解が深まったと回答している。教師と保護者が直接コミュニケーションがとれた三者面談は大変に貴重な機会となった。 ○学校生活全般に積極的に取り組んでいると感じる保護者が84%で前回より微増となった。コロナ禍で困難な状況は変わらないが、学校行事も徐々に再開されつつあり、足利高校との対抗戦の代替行事「煌斌祭」では生徒が主体的に企画、運営を行い有意義なものとなった。「新しい生活様式」を踏まえ今後の学校行事が実施できるよう善処したい。 ○2学期の遅刻は1学期に比べ増加傾向(1日平均5.1人)、しかし昨年度(6.1人)よりも減少している。アンケートから規則正しい高校生活を送っているという生徒の割合は83%である。また、97%の生徒が安全な登校を心がけているという結果を得た。 ○「保健だより」から情報を提供し、健康・安全について生徒の意識を高め、心身の充実が健やかな高校生活に繋がるよう支援する。 ○いじめ防止フォーラムの成果ポスターを利用して、いじめ防止に対する意識向上をはかれた。 ○95%の生徒がいじめに真摯に向き合う態度を持っている。しかし保護者の3%が学校がいじめ対策の取組が不十分と回答している。学校側の周知不足を反省している。	○ヘルメットが努力義務ではしている子としていない子がいる。被っていれば亡くならなかったケースがある。義務化して欲しい。 ○子どもからの情報が来ない。一斉メールなど直接の連絡があって知ることが多い。いじめ対策の周知などは伝わりにくい。保護者に積極的に知らせて欲しい。 ○挨拶は大学生はしなくなる。高校では続けて欲しい。 ○コロナ禍もあって、悩みを抱えている者が多い。面談などタイミングをみて、アンテナを高くして欲しい。中学校では、グループで「心と体の相談室」に書き込むようにした。声がけができないときはそのような方法をとるのも良い。	○本校のいじめの未然防止や早期発見とその解消に向けた取組について、依然として保護者の34%に学校の取り組みが伝わっていない。今後も保護者会等を活用し周知に努めるとともに、引き続き粘り強く理解を求めていきたい。 ○定例会議で綿密に生徒の情報交換・情報共有を行い、問題を抱える生徒に対して個別の指導計画の立案を含めて指導していく。 ○太高祭の開催年度になるが、新型コロナウイルスの感染症対策を含めて、早めの準備を心掛ける。また、生徒一人ひとりが主体的に取り組めるように留意する。 ○引き続きいじめのアンケート調査に加えて、日常的な観察、面談等を通して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ○日頃から情報の送受信を積極的に行い保護者、地域との連携を深めていく。 ○交通ルール・マナー等において依然として改善すべきところが多い。集会等を通して交通事故を未然に防ぐ観点からも安全な登下校を心がけるよう指導していく。 ○生徒間のトラブルは複雑で表面化しない問題もあるため、生徒の生活に目を配り、変化を見逃さないよう職員間で情報共有をする。 ○学校がいじめ対策への取り組みを保護者に周知する方策を増やす。PTA新聞や学校ホームページ等のさらなる活用を試みる。	
		⑫ 職員・生徒・保護者間のコミュニケーションを密にする取り組みを行うとともに、学校生活に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	B	B	B				
		⑬ 家庭と連携をとりながら、(正当な理由でない)遅刻を0%にする。	B	B	B				
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑭ いじめと真剣に向き合い、常にいじめを許さない気持ちと態度で臨んでいる生徒が90%以上である。	A	A				A
			⑮ 学校から提供される進路情報が役立つと評価する生徒が70%以上である。	A	A				A
			⑯ 自らの進路について考え、日々の生活に取り組んでいると自己評価する生徒が70%以上である。	A	A				A
6 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	6 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑰ 学校からの情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	A	A	A	○一斉メールによる連絡の配信、本校Webページによる情報発信においては、保護者にも一定の満足を得ている。一方で、保護者や地域の方々の要求水準も上昇しているため、新たな情報発信方法の確立を検討していきたい。	○良いところは積極的に発信を。 ○質問に対し「わからない」という回答がパーセンテージとして多い。実施していることをさらに説明できるとよい。		
		⑱ オンラインによる教育活動を10回以上実施する。	A	A	A				
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑰ 学校からの情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	A	A	A	○自身の進路実現に対して日々の生活に「十分取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」と答えた生徒は、3年生で約97%、2年生で約86%、1年生で約84%との解答を得た。 ○担任との面談を実施したり、学校生活の充実や進路(キャリア)の選択肢を増やしたり、キャリアサポート(ポートフォリオ)を活用し、日常的な授業や部活などの振り返りを充実させて、自分を見つめる機会を増やし、自身の希望する進路の実現を図るように支援している。	○自身の進路実現に対して日々の生活に「十分取り組んでいる」生徒が3年生の51%に対して、1・2年生では約23%と、早い時期から高い進路意識を持つ生徒が多数現れるような教育活動を考えていきたい。 ○コロナ禍で予定通りの活動がなかなかできなかったが、学校として対策や対応は進められた。そこで、この状況を踏まえた3年間を見通した計画を再度検討し、実行していきたい。 ○保護者に対してより適切な進路情報の提供や、受験に対する相談を行っていく。難関大をより積極的に志望する為の協力体制を構築する。		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑱ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	A	A	A				
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校からの情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	A	A	A	○分散登校時においては、ほとんどの授業においてオンライン授業を実施することができ、生徒に対しても一定の満足を得ることができた。また、普段の授業においてもICTを活用する実践が増加し、多くの生徒が学習用端末を積極的に使用するようになった。 ○授業はもちろんのこと、模試の得点入力、学習時間調査、ICTを用いて行い、処理作業の負担軽減につながった。 ○学校評価アンケート、学校主催等の出欠調査、修学旅行に係るアンケート、学校説明会の申込み等、オンライン上で実施する機会が格段に増え、情報処理の速度が大きく上がった。 ○職員会議資料もペーパーレス化し、必要な資料の閲覧、印字も容易に行えるようになった。引き出しもし易くなった。	○本校の教育活動が十分に把握できるコンテンツをWeb上に掲載し、生徒、保護者をはじめ中学生等にも十分に情報発信できるよう環境を整える。 ○今後はワイドによる情報発信が一般的になるため、設備等の充実にも努める。また、生徒が学習用端末を積極的に使用できる環境作りを目指す。		
	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	A	A	A				
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	A	A	A	○ICTを利用した指導をただ行うのではなく、それによる効果を検証し、質の高い教育活動になるように発展させていくことが次年度以降の課題である。 ○いじめに関する調査、コロナ禍の不安等、各種相談の受付等もICTを利用して行うことで、処理の速度を上げるとともに、機密性も担保されるため、活用を考えていきたい。(教員の勤務時間も十分に考慮)			
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	A	A	A				